

1 主題名 規範意識（仏の銀蔵） 内容項目4－（1）社会の秩序と規律

2 主題設定の理由

(1) ねらいとする価値について

内容項目4－（1）は「法やきまりの意義を理解し、遵守するとともに、自他の権利を重んじ義務を確実に果たして、社会の秩序と規律を高めるように努める。」ことをねらいとしている。社会生活に秩序を与え、摩擦を最小限に抑えるために人間の知恵が生み出したものが、法やきまりである。それらは自分たちの生活や権利を守るためにあり、遵守することが大切である。物事の見え方が増え、自由な世の中であることから、法やきまりには、窮屈なイメージを抱きがちである。しかし、中学生ともなると法やきまりは自分たちの生活や権利を守るためにあることを理解し、遵守することができるようになることが望まれる。法やきまりを遵守することの意義を学び、守るべき正義としてそれらを大事にする心を育てていくことは大切であると考え。

(2) 生徒の実態について

本学級の生徒は落ち着いた生活態度である。校則やクラスのルールなどを守って生活してきた。しかし2学期も中盤となり、学校生活に目をやると、クラスの約束事などにルーズになっている一面も見られる。そこで、次のようなアンケートを実施した。

（平成25年9月17日実施 第1学年3組 30名）

いつでもきまりを守ることができますか。	できる	13名
	できないこともある	15名
	できない	2名
きまりは必要だと思いますか。	思う	30名
	思わない	0名
それはなぜですか。 <ul style="list-style-type: none"> ・みんなが楽しく安全に過ごせないから。 ・他の人に迷惑をかけてしまうから。 ・善悪の判断がつかなくなるから。 ・乱れてしまうから。 ・社会のルールは大切だから。 		

アンケートの結果から分かるように、ほとんどの生徒がきまりを概ね守ることができている。また、きまりの必要性を理解し、なぜ必要なのかということについても漠然とした考え方をもっている。しかし、きまりの必要性を感じながらも、ときには破ってしまうのは、きまりを押しつけられていると感じたり、私たちの過ごしている社会が様々なきまりによって営まれているという意識が希薄になっていたりするからなのではないかと考える。そこで、きまりは何のためにあるのか考え、きまりが社会を支える重要な意味をもつことを理解させたい。そして社会の秩序と規律を、自ら高めていこうとする意欲を育てたい。

(3) 資料について

本資料は『中学校読み物資料とその利用－「主として集団や社会とのかかわりに関すること－平成3年3月文部省』からの出典である。高い利子をつけて金を貸しては厳しい取り立てをしていた銀蔵が、ある日、大切な証文綴りをカラスに持っていかれ、貸した金の取り立てができなくなる。銀蔵が苦しい生活をするようになると、銀蔵を恐れ、憎んでいた人々が、証文綴りが無くても自分から借金を返し始める。借金をごまかすこともできたのに、借金を返す村人たちの規範意識に焦点をあてた資料である。

授業においては、まず、なぜ人々から鬼の銀蔵と呼ばれていたのかについて考えることにより、銀蔵の人柄についておさえる。次に、証文綴りがないのに人々がお金を返し始めたときの銀蔵の気持ちを考えることで、ねらいとする価値について深く考えられるようにしたい。さらに、「そうか、お天道様か。」と言った後、銀蔵が何を思いつぶやいたか、役割演技を行う。銀蔵の気持ちの変化を考えることを通して、規範意識の大切さに気づき、秩序や規律のある社会を築こうとする道徳的実践意欲を育みたい。

4 本時の指導

(1) ねらい

中心人物の心情を考えることを通して、規範意識の大切さを理解し、社会の秩序と規律を高めようとする意欲を育む。

(2) 準備

読み物資料，ワークシート，挿絵，心のノート

(3) 展開

流れ	学習活動と発問	予想される生徒の反応	教師の支援
ふれる	1 自分たちの規範に関する意識について考える。 ○皆さんはどんな時もきまりを守って行動できますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・できると思う。 ・できないこともあるかもしれない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常の中で、人としてきまりを守り、正しい行いをできているか振り返りながら、意識付けを図る。
気付く	2 読み物資料「仏の銀蔵」を読み話し合う。 ○人々からなぜ「鬼の銀蔵」とよばれていたのでしょうか。 ○証文綴りが無いのに、人々が金を返し始めたとき、銀蔵はどう思ったでしょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・高い利子をつけて金を貸してもうけていたから。 ・貸した金を厳しく取り立てていたから。 ・証文が無いのに、なぜ金を返すのだろう。 ・自分なら返さないのに。 	<ul style="list-style-type: none"> ・銀蔵が感じたことに注意させながら範読を聞かせる。 ・銀蔵の人柄をおさえることで、この後、銀蔵がどのように変わっていくのかを捉えやすくする。 ・人々の行動により、銀蔵が自分本位であったことに気付き始めたことをおさえる。
つかむ	○「盗人にはなりたくねえ。」 「お天道様が見てござる。」とはどういう事でしょう。 ○「そうか、お天道様か・・・」と膝を打った銀蔵はどんなことをつぶやいたでしょう。銀蔵になりきって表現してみましょう。	<ul style="list-style-type: none"> ・お天道様は太陽でいつも見ているから、悪いことはできない。 ・お天道様は悪人を見張っている。 ・自分のことしか考えていなかった。 ・お天道様に恥ずかしくない生き方をしよう。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人々の言葉の意図を確認してから、銀蔵がどう思ったかを考えさせる。 ・銀蔵の心情を捉えやすくするために「お天道様」とは何か考えさせる。 ・役割演技は銀蔵の気持ちに共感することが目的であることを伝える。
振り返る	3 授業を振り返り、感じたことを話し合う。 ○今までにきまりを守った、守れなかった経験はありますか。	<ul style="list-style-type: none"> ・家に帰る時間を守れなかった。 ・黙働清掃をいつも守れている。 ・みんなが気持ちよく生活するために守らなければならない。 	<p>◎ 評 きまりを重んじ、社会の秩序と規律を高めようとする態度が育まれたか。</p>
深める	4 教師の説話と、「心のノート」p 92, 93を読む。		<ul style="list-style-type: none"> ・ねらいとする価値について触れた後、余韻をもたせて授業を終える。